

2008 年度

科目名 仏教学	対象学科・学年 教育教福2回生	担当者 貫名 譲
授業テーマ (前期) 聖徳太子の仏教観にふれる (後期)『歎異抄』を読む		
授業の概要と目標 前期は、和国の教主（日本の釈尊）と呼ばれ、宗派を越えて今なお信仰されている聖徳太子の実像・思想に迫ってみたいと思います。 後期は、親鸞の弟子・唯円によって著された『歎異抄』を読み進めながら、親鸞の思想の特徴を見ていこうと思います。 前期も後期も、難解な言葉はできるだけ使わず、現代的な視点から捉えていきたいと思っています。		
評価方法 レポート試験（50％）、出席状況・授業態度（50％）、総合評価で行います。		
テキスト	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 ー前期ー ① はじめに ② 「仏教」って何？ ③ 日本に仏教が伝わった頃の様子 ④ 聖徳太子と、彼を取り巻く人々との関係 ⑤ 聖徳太子の目指したもの ⑥ 聖徳太子の仏教観1（十七条憲法） ⑦ 聖徳太子の仏教観2（法華経義疏） ⑧ 聖徳太子の仏教観3（勝鬘経義疏） ⑨ 聖徳太子の仏教観4（維摩経義疏） ⑩ 聖徳太子の残した言葉（天寿国繡帳） ⑪ 伝説と真実 ⑫ 聖徳太子が及ぼした影響 ⑬ まとめ1 ⑭ まとめ2 ⑮ レポート試験 ー後期ー ① はじめに ② 鎌倉新仏教の特徴 ③ 親鸞と唯円、『歎異抄』とは ④ 第1条 念仏とは ⑤ 第2条 よきひとのおほせ ⑥ 第3条 善人よりも悪人の法が往生しやすい ⑦ 第4条 助けることは難しい ⑧ 第5条 供養の念仏ではない ⑨ 第6条 弟子は一人もいない ⑩ 第7条 念仏の道とは、念仏に生きるものとは ⑪ 第8条 念仏は行ではない ⑫ 第9条 歓喜と煩惱 ⑬ 第10条 はからいを離れる ⑭ まとめ ⑮ レポート試験		